持続可能なインパクトを生み出そう

Ueno East Rotary Club since 1981.04.23 Rotary 上野東ロータリークラブ

週報

Weekly Report 2026-2027

2026-2027年度 上野東ロータリークラブ クラブスローガン 原点回帰 "back to the basics"

事務所
三重県伊賀市西明寺 2756-104 ヒルホテルサンピア伊賀内
TEL 0595-24-4650　FAX 0595-24-4656

例　会
毎週木曜日 12:30　第3週例会 18:00 点鐘
ヒルホテルサンピア伊賀　TEL 0595-24-7000

□ 2117 No.46　■URL：http://www.ict.ne.jp/~u-eastrc/　■e-mail：u-eastrc@ict.ne.jp

2026年10月15日(木) ―特別休会―
本日の例会　第2131回 2026年10月22日(木)
開会点鐘　12:30
ソング
出席報告・会長の時間・幹事報告・ニコニコボックスの報告
本日のプログラム『米山月間に因んで』
ロータリー財団補助金管理セミナー受講報告
閉会点鐘　13:30

前回の例会　第2130回　2026年10月8日(木)
開会点鐘　12:30
ソング「我等の生業・秋桜」
ゲスト紹介【歴史小説家 摂津 守様】
出席報告・会長の時間・幹事報告・ニコニコボックスの報告
ロータリーの友の読みどころ
本日の行事　”豊臣兄弟”絶賛放送中に因んで「藤堂家四方山話」
閉会点鐘　13:30

出席報告

正会員数	39名
出席免除者数	4名
欠席免除者以外の欠席者数	4名
出席率	88.57%
9月24日の修正出席率	96.97%



会長の時間　鈴木会長



本日は、糖尿病治療薬であるマンジャロが、減量目的で使用されていることについてお話しします。本来、糖尿病の治療に必要な方に薬が行き渡らなくなることは、大きな問題です。痩せるという効果だけに注目して安易に使用すると、副作用など、思わぬリスクを招く可能性もあります。目先のメリットだけを見るのではなく、その裏にある危険性や影響についても、十分に考えることが大切です。これは薬に限ったことではなく、日常生活や仕事においても同じだと思います。簡単に得られる利益に飛びつくのではなく、地道にコツコツと努力を積み重ねることが、結果的に大切なのではないでしょうか。

幹事報告　平井幹事



来週第3夜間例会は特別休会となります。
次回は22日の第4例会となりますので、お間違いないようお気をつけください。

ニコニコボックスの報告

鈴木会長：摂津守様をおむかえして！！本日の卓話楽しみにしております。
平井幹事：歴史小説家摂津守様ご来場ありがとうございます。卓話よろしくお願いします。
中井会員：10月10日農人町旧チッタ跡に「いがグリオ」のポケットパークを作りました。ガス灯も100周年で立てました。早退のお詫び。
長谷川会員：摂津先生、ご遠方のところお越しいただきありがとうございます。本日の卓話、宜しくお願い致します。阪神タイガース初の連覇を自祝して！
栗本会員・神戸会員：歴史小説家摂津守様をお迎えして。本日の卓話よろしくお願いいたします。
出後会員・松本会員・恒岡会員：摂津守殿、宜しくお願い致します。
山森会員・中里会員・西会員：摂津先生、今日はお世話になります。
中尾会員：先週ホーム例会欠席のお詫び。

ロータリーの友の読みどころ　北澤会員



今月の『ロータリーの友』の読みどころを紹介します。
横書き5ページには「クラブの居心地を良くするための秘訣」が掲載されています。私自身、諸先輩方のお話から学ぶことが多く、今後もいろいろと勉強させていただきたいと思います。13ページの「米山をもっと身近に」では、10月22日に米山月間にちなみ、当クラブにも在籍されていた張さんにお越しいただく予定です。また、19ページには2027年6月の国際ロータリー大会（バルセロナ）について紹介されています。ぜひ皆様もご覧ください。最後に、今月は長谷川さんの俳句が掲載されていませんでしたので、来月を楽しみにしております。

本日の行事　歴史小説家摂津守様　卓話



まず初めに、プログラム委員会長谷川委員長より、摂津先生のご紹介がありました。
摂津先生は1953年京都生まれ。1977年に大学を卒業後、第一神戸銀行に入行し、主要支店の支店長などを歴任されました。退職後は、幼い頃から好きだった歴史小説や城郭の研究を生かして執筆活動を開始。歴史に埋もれた武将にも光を当て、特に藤堂高虎を題材とした小説を発表されています。



歴史小説家
摂津 守様

本日はお招きいただき、誠にありがとうございます。岐阜ロータリークラブから数えると約30年、神戸ロータリークラブからだと約20年。久しぶりにロータリーの歌を歌わせていただき、大変懐かしく感じております。
私が歴史に興味を持ったのは、父の影響もあります。小学生の頃から戦国武将の本を読み、小学6年生のときには父に連れられて伊賀上野城を訪れました。そこで藤堂高虎ゆかりの城であることを知り、当時行われていた時代劇や忍者の催しを見たことも、今でも記憶に残っています。
藤堂高虎は、加藤清正、黒田官兵衛と並ぶ築城の名人として知られています。しかし、ほかの二人に比べると、一般にはあまり知られていません。これほど多くの城づくりに関わった人物なのに、なぜ小説などで取り上げられることが少ないのか。私はそこに疑問を感じ、高虎の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいと考え、処女作『蔦は枯れず』を執筆しました。
高虎の魅力は、敵であった人物でも、その能力を認めれば家臣として迎え入れたところにあります。戦国時代を生き抜く中で、過去の敵味方にとらわれず、人材を登用していったのです。私は、こうした高虎の生き方や人間関係を掘り下げるとともに、歴史の表舞台ではあまり語られない武将たちにも光を当てたいと考えています。その後も、丹波の赤井直正に関わる人物や、藤堂高虎の腹心で幼なじみでもあった藤堂新七郎義勝、藤堂高吉などを題材に作品を書いてきました。
執筆で大切にしているのは、できる限り史料に基づいて描くことです。歴史は研究が進むほど新しい説が出てくるため、何が事実なのか判断が難しいこともあります。現時点で分かっている史実を土台にしながら、記録に残されていない部分は想像を交えて物語にしています。また、地域の研究者や地元の方々から資料をいただき、お話を伺うことも大切にしています。伊賀や名張を何度も訪れる中で、多くの方々と知り合い、歴史を通じた新しい人の輪ができたことは、私にとって大きな喜びです。
さらに、藤堂家の歴史を調べる中で、松尾芭蕉の生い立ちについても独自の考察を重ねてきました。わずかな史料や人物同士のつながりを手掛かりに、歴史の謎を読み解いていくことも、研究や執筆の面白さだと感じています。
定年後は、母の介護をしながら執筆を続けるなど、苦労もありました。しかし、好きだった歴史に向き合うことで、銀行員時代とは違う世界が広がり、新しい出会いや発見に恵まれました。
皆様も、仕事を退いた後には、ぜひこれまでとは違う世界をのぞいてみてください。長年好きだったことや、以前から挑戦したいと思っていたことに取り組めば、思いがけない楽しみや人とのつながりが生まれるかもしれません。私自身、定年を機に新しい道へ進んだことで、第二の人生を充実させることができました。
これからも歴史に埋もれた人物たちの魅力を伝えていきたいと思っております。
本日は誠にありがとうございました。



摂津様、本日は遠方よりお越しいただきありがとうございました。